

児童のコミュニティを広げていくきっかけとしての 校内別室の利用について

不登校児童の状況

対象児童は、小学校1年生の2学期初めから登校を渋るようになり、その後欠席が続いた。小学校3年生進級時から月1回放課後に登校し、担任と簡単な学習などを行うことができるようになった。小学校4年生に進級したことをきっかけに校内別室の利用を促し、6月から週2回程度通室できるようになった。

具体的な取組

○安心できる、新たな居場所づくり

校内別室は、安心して自分のペースで過ごすことのできる場所だと認識してもらうため、通室が始まった当初は、当該児童の話したいことを支援員が傾聴したり、一緒にカードゲームをしたりできる場を設けた。支援員に対して安心と信頼を感じられるようにすることを最優先させた。

○児童の学習状況の把握

長期間の不登校で学習の積み重ねがされていないことや当該児童の特性を踏まえながら、個別の指導計画を立てて、学習支援を中心に指導を行った。可能な限り、当該児童の得意なことを生かして取り組むことができるように計画を立てた。



○その日の状態に合わせた

スケジュールづくり

登校した後、まず1日のスケジュールについて話し合い、当該児童の意思を尊重しながら学習の時間、談話の時間、ゲームの時間等の計画を立てた。その日の当該児童の様子や状態に合わせて、無理のないペースで活動に取り組めるように配慮した。

○家庭との連携（情報共有）

1日のスケジュールシートに振り返りを書き、下校時に家庭に持ち帰ることで、当該児童が学校でどのように過ごしたのかを保護者に伝えられるようにした。また、欠席連絡用アプリを用いて、保護者から登下校時間や当該児童の様子を伝えてもらうようにした。

成果

当該児童は、不登校期間が長く、家で、一人で過ごす時間が多かった。校内別室へ通うことで、家族以外の大人に対して安心と信頼をもつことができた。それを足がかりにして、他の児童との関わりを広げていくことができた。

課題

中学校進学に向けて、長期欠席による学習の遅れへの対応や、当該児童の進学に対する不安へのサポート体制の充実を図っていく。